



奈良県感染症発生動向調査還元情報（週報）

奈良県感染症情報センター Nara IDSC
（奈良県保健環境研究センター内）



● 今週の概要

- 今週の感染症情報
- 気になる話題 予防接種…を知る(2) New



（調査週）平成 24 年 第 34 週 8 月 20 日（月）～8 月 26 日（日）

奈良県および二次医療圏別発生状況（奈良県上位 5 疾患）（5 週間からの動向）

順位	疾患	定点当り	奈良県	北部	中部	南部
1	感染性胃腸炎	1.66	→	→～↓	→	↓
2	ヘルパンギーナ	0.66	↓	↓	↓	↓
3	突発性発しん	0.29	→	↑	→～↓	→～↑
4	咽頭結膜熱	0.26	→～↓	↓	→	↓
4	流行性耳下腺炎	0.26	↑	→	↑↑	↓

全県の動きと目立って異なる推移（定点当りの変化程度で実数ではない）を太い矢印で示す。

県北部地区概況 報告数は46例で、前週報告の62例から減少。上位5疾患は、①感染性胃腸炎、②ヘルパンギーナ、③突発性発しん、④RSウイルス感染症＝伝染性紅斑＝水痘＝流行性耳下腺炎の順。ヘルパンギーナの報告数(10例)は、やや増加。RSウイルス感染症の報告数(2例)も、やや増加。伝染性紅斑の報告数(2例)は、ほぼ横ばい。感染性胃腸炎の報告数(19例)は、減少。突発性発しんの報告数(5例)は、やや減少。水痘の報告数(2例)も、やや減少。流行性耳下腺炎の報告数(2例)も、やや減少。奈良市HCおよび郡山HC両管内眼科定点から、流行性角結膜炎の報告が各々1例ずつ計2例あった。また、郡山HC管内基幹定点からは、細菌性髄膜炎が1例(60～64歳症例)報告された。

（村井 記）

県北部外来状況 お盆前後で外来患者数は少ない。ヘルパンギーナやいわゆる夏風邪も減少している。7月のヘルパンギーナ女児例の咽頭ぬぐい液からコクサッキーA5が検出されたとの報告をいただいた。感染性胃腸炎は10歳以上で細菌性が少しみられる。

(矢追 記)

県中部地区概況 報告数は、55例から82例と増加した。上位5疾患は、感染性胃腸炎、ヘルパンギーナ、咽頭結膜熱、流行性耳下腺炎、水痘の順であった。感染性胃腸炎は、37例と横ばいであり、ヘルパンギーナは、10例と減少している。流行性耳下腺炎は、2例から7例と急に増加している。基幹定点および眼科定点からの報告はなかった。

(高木 記)

県中部外来状況 外来数は多くない発熱・鼻水の軽度の感冒が主。アデノ様の高熱例は少なくなった。今夏、ヘルパンギーナ、手足口病は殆どなかった。感染性胃腸炎も少なかった。

(岡本 記)

県南部地区概況 報告数(第33週→第34週)は18例→9例と減少。報告のあった疾患は、①A群溶連菌咽頭炎(1例→3例)、①ヘルパンギーナ(4例→3例)、③感染性胃腸炎(7例→2例)、④突発性発疹(0例→1例)であった。

(柳生 記)

県南部外来状況 当院盆休み明けの第33週後半以降も、外来数は特に多いということとはなかった。感染性胃腸炎やヘルパンギーナが少しずつと、伝染性紅斑が1例あった他、アデノウイルス感染症が少しあった程度。夏休みに入ってから部活などを通して感染したと思われる中学生のマイコプラズマ感染症疑い例もあった。

(山本 記)

予防接種-----を知る (2)

ポリオのワクチンが9月1日から「不活化ワクチン」に切り替わります

ポリオは、ポリオウイルスが中枢神経に感染し、手足の麻痺などを発症する病気で、「小児マヒ」とも呼ばれています。わが国の予防接種では、生きたウイルスを弱らせて作った「生ワクチン」を使用してきましたが、まれに発症する危険性があったため不活化ワクチンへの切り替えを行います。

2回接種から4回接種に

使用するワクチンの変更に伴って、接種方法も大きく変わります。

- ① 口から飲ませる方法から皮下注射に変わります。
- ② 接種回数が、従来は2回でしたが4回に増えます。(接種間隔は1回から3回は各回20日以上あける。4回目は初回接種終了から6ヶ月以上の間隔をおく)
- ③ これまでは、春と秋に集団で実施されましたが、今後は医療機関で個別に受ける「通年接種」となります。(但し、市町村で異なりますのでご相談ください)
- ④ 9月からのワクチンは単独タイプですが、11月には他の3つ(ジフテリア、破傷風、百日咳)のワクチンと一緒に4種混合が追加されます。(3種を受けていない人を対象とする予定)

厚生労働省が想定する接種パターン

— 1回も接種を受けていない場合 —

- ・ 単独タイプの不活化ワクチンを4回接種する (今年7月以前に誕生)。
- ・ 4種混合タイプの不活化ワクチンを4回接種する (今年8月以降に誕生)。

— 生ワクチンを1回接種している場合 —

- ・ 接種の合計が4回になるよう単独タイプの不活化ワクチンをあと3回受ける。

— 自費で不活化ワクチンを1~3回接種している場合 —

- ・ 接種の合計が4回になるよう単独タイプの不活化ワクチンをあと1~3回受ける。



詳しくは市町村でご相談ください。

(感染症情報センター 記)

これらの内容は以下のホームページで
さらに詳しくご覧いただけます

http://www.pref.nara.jp/dd_aspx_menuid-27874.htm